

武蔵野市第 3 期健康福祉総合計画の策定に向けた

「地域福祉団体等ヒアリング」の報告

1. 実施概要

(1) 目的

武蔵野市第 3 期健康福祉総合計画（主に地域福祉計画、高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画）を策定するにあたり、地域の福祉等に係る団体を対象に、市が直接ヒアリング・意見聴取を行う。

(2) ヒアリング対象団体

主に、地域福祉に関する現状、福祉における「共助」「互助」についての意見を聞くため、福祉関連団体等を対象とする。

- ・地域社協
- ・民生委員・児童委員協議会
- ・武蔵野市赤十字奉仕団
- ・保護司会武蔵野分区
- ・テンミリオンハウス運営団体
- ・いきいきサロン運営団体
- ・レモンキャブ（運行協力員）

(3) 日時・場所・参加人数

エリア	日時	場所	参加人数
中央	6月 23 日（金） 午後 2 時～3 時 30 分	武蔵野総合体育館大会議室	16 名
東部	6月 28 日（水） 午後 6 時 30 分～8 時	武蔵野商工会館ゼロワンホール	26 名
西部	6月 30 日（金） 午後 3 時～4 時 30 分	武蔵野スイングホール・レインボーサロン	26 名

2. 意見

「支え合いの気持ちをつむぐ」

○福祉学習・ボランティア学習の推進

意見	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生、若い人にボランティアを体験してもらうことが大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の取り組みの拡大が求められている。

○様々な「場」(活動、機会など)づくりの支援

意見	課題
<p>【いきいきサロン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策そのものは素晴らしい。 ・居場所をつくと高齢者は集まる。 ・いきいきサロンで掘り起こしに成功(コミセンや福祉の会のプログラムに来ていない人が来ている)。 ・認知症になることが恐いので地域に身近な予防ニーズはある。 ・参加者には普段あまり話さないという人が多く、話す場を提供できている。 ・利用者が増加・定着(継続参加)。 ・自分たちが元気に過ごそうという目的で頑張っている。 ・参加者に「また来る」と言われてやりがいにつながっている。 ・参加者の心身の状態の改善がみられる(歩けるようになる、話すようになる)。 ・参加者の平均年齢が高い。 ・利用者が固定化。 ・元気なうちはよいが、元気でなくなっても、通いたいという方をサロン側から断ることは難しい。 ・要介護認定者も参加しているが、この先が心配。 ・認知症が見られる利用者への対応を懸念。今後増えていくと見込まれる。 ・場所の確保が問題。今の場所が使えなくなったら開催場所がない。 ・場所が狭く、参加希望者は多いがスペースの問題で対応できない。 ・市立施設を使えないのはやりにくい。 ・準備金が出るまで経費の立替が発生する。 ・お菓子代に予算が使えない。融通が利くと良い。 ・毎週行うのでプログラムを考えるのが大変(アイディア、他のサロンの情報が欲しい) <p>【テンミリオンハウス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・親子への利用など高齢者以外の利用の検討 <p>【レモンキャブ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が増えると運行者も車両も必要になる。 ・安全向上のため講習等が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組成果・効果が認識されており、拡大・普及の促進が必要である。 ・運営資源の確保に対する支援が求められている。 ・ノウハウの共有、情報交換等の支援が求められている。 ・高齢化の進行及び、活動の継続に伴って、要介護認定者の新規受入・継続受入やそのための課題への対応、支援策の整備が求められている。

○民生児童委員、赤十字奉仕団、地域社協の活動支援

意見	課題
<p>【地域社協】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント企画が奏功して集客できた。 ・拠点（事務局）がなく、行動が制約される。地域にPRする場が限定される。代表が個人宅で物を引受け預かっている。 ・担い手がいらない、不足。 ・役員の半数は民生児童委員。活動が増えて辞める人のほうが多い。 ・「若い人」ではなく、「新しい人」の発掘が必要。 ・行政が全てをしてくれるわけではない。 ・テンミリオンハウスやコミセンは報酬があるが、地域社協は役員の持ち出しが生じている。考えてほしい。 ・予算を削減された（活動量は変わらないので昨年並みの予算を）。 ・楽しい会には参加者が集まるが、教養講座では人集めが大変。 ・個人の力量に負うところが大きい。組織的に動くのは大変 ・場所の都合で受入に限界があるため、参加者が定着すると参加を遠慮する方が出る。より広く門戸を開いていくことが課題。 ・気軽に集える場は現状ではコミセン。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手を取り込むため、様々なことを行っているが、発掘の工夫が必要。

○孤立予防の推進

意見	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・つながりをつくる、人と話すことが大事。 ・安心してどこでも受け入れられ、縁をつくれる地域、まちの中で挨拶できる環境をつくりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の目線で孤立の状況が見えており、その対応推進が課題となっている。

○安否確認及び避難支援体制づくりの推進

意見	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の会が避難所の担い手メンバーとなったが何をやってよいか分からない（担い手の講習・訓練等が必要） ・都営住宅は独居高齢者が多く、訪問してもドアを開けてくれない。 ・災害時要援護者が増えている。確認が大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難支援体制は動き出したが、活動の更なる推進が必要。

「誰もが地域で安心して暮らしつづけられる仕組みづくりの推進」

○地域連携協議会（仮称）による課題解決に向けた仕組みの構築及びネットワーク強化

意見	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字奉仕団と一緒に活動して知らないことが見えた。ネットワークが大切。 ・地域社協、いきいきサロン、保護司の会など、地域の中でどのようにネットワークを組むのか。 ・仲間同士で1つのグループになると広がりがなくなる ・横の交流機会がない。 ・他の地域団体でどのような活動をしているかをみることも大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民レベルの活動のネットワークの強化の重要性が指摘されている。

「誰もが地域でいきいきと輝けるステージづくり」

○シニア支え合いポイント制度の検討

意見	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢を考慮してほしい。 ・制度の活動対象範囲が狭い（いきいきサロンに適用されない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイント制度については、拡充が求められている。

「住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備」

○福祉人材の育成

意見	課題
<p>【人材不足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職したばかりの人を狙って人材を確保。 ・人材確保が課題（高齢者は再雇用、若い人は仕事、ボランティアも有償/地域外に流れる）。 ・特に男性がいない。 ・運営の担い手確保が課題（ボランティアより重大）。 ・役員のなり手がいない。 ・民生児童委員は、定年や自己都合退職で減った際に、それを補う人がいないことで、欠員が発生している。 ・ボランティアにも有償の波。すべて無償での依頼は気が引ける。 ・頑張っている人に頼りすぎではいけない。 ・年齢の「若い人」ではなく地域にまだ出ていない「新しい人」の掘り起こし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者再雇用や有償ボランティア等の広がり状況・動向を前提とした人材確保の方策と支援が求められている。 ・地域活動の中心的な担い手は複数の役割を兼務しており、負担が大きい。
<p>【兼務負担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人何役もこなさなければならない（どこも人材がいない）。 ・団体・会は違っても役員はほとんど同じ顔ぶれ（兼務）。 ・一人何役も担っていると、活動によって立場の使い分けが必要だが、一般の住民に活動側の立場は関係ない（日赤奉仕団として友愛訪問し、次に民生委員として募金をお願いすることは後ろめたさを感じる。無理すれば関係も崩れる）。 	
<p>【人材の高齢化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化。 	
<p>【担い手のケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尽くしているという満足感はあるが、休めないので大変。担い手のことも考えてほしい。 	
<p>【若い人材の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人のボランティア参加を促進する社会のしくみ（例：ボランティア経験がないと大学を受験できない等の条件があれば若い人もボランティアをする） ・ポイント制度（例：ポイントが将来優先的に老人ホームに入れる条件になるといった特典があると、若い人にもボランティアに来てもらえると思う） 	

事前に提出された意見・要望（要旨）

1 民生児童委員

○活動の課題・問題点

- ・高齢者は増加している反面、民生児童委員のなり手が少なく、委員個々の負担が増えている。普及啓発活動をしているが、委員そのものや活動内容の理解が充分得られないことがある。
- ・最近では個人情報保護法で行政等から必要な情報が得られず、地域での活動が難しくなることも。
- ・地域社協等他団体との関わり方が難しく、委員本来の活動があるので、地域社協を中心に活動できないことを理解してほしい。仕事をしていても活動できる体制にすることも今後の課題。
- ・欠員補助は大変だが、安易に決めず、近隣の信頼できる民生委員に確認することが必要。
- ・ボランティア活動では、女性は多いが男性は数少ない。60歳以上の男性を呼び込む策が必要。
- ・高齢者のみの世帯・独居が増えている。独居調査でも訪問拒否の方が増え、実態把握が困難。

○担い手を増やす際に効果のあった事

- ・地域に出て、多くの地域の方々と知り合う。
- ・人材確保で、ボランティアでは特に厳しい。一人一人口説いて誘致するのが一番。
- ・青少協の活動等、機会がある事にPRしている。

○市に支援・推進してほしい事

- ・元気な60～75歳を、市高齢者支援課地域担当アドバイザー（アルバイト）で採用してはどうか。

2 赤十字奉仕団

○活動の課題・問題点

- ・団員の高齢化は、個々の負担増、退団増加とつながり、さらに負担増大する状況だ。
- ・活動の負担が多いので勧誘が難しい。
- ・メンバーの高齢化。新しく入る方はいるが、高齢で辞める方もいて、メンバーが増えない。40・50代の方は仕事をしており、昼間の時間帯は奉仕活動できず、入ってもらえない。

○担い手を増やす際に効果のあった事

- ・友人に声掛けすれば入ってもらえることもある（同じ年代の方）。

○市に支援・推進してほしい事

- ・研修旅行が重荷で行けない人も多い。全団員が一堂に集合して会食等する機会がほしい。話すことで理解できる事も多く、1年に1回そういう場がある事がモチベーションを保つ事になる。

3 地域社協

○活動の課題・問題点

- ・①メンバーの固定化、高齢化 ②地域として取り組むべき「共助」の課題についてのメンバー

間の討議不足 ③域内関係団体との提携がまだまだ不十分

- ・教養関係の講座は参加者が多い。役員が分担して運営委員等に参加を呼びかけている。
- ・新しい会員も増え「つながり」ができつつあり、大切に育てていきたい。
- ・共催のコミセン、町会等の行事、活動について更に地域づくりに励みたい。
- ・会員数はある程度いるが、新たに入会する個人会員が少なく、又、実際に動ける会員も少ない。
- ・少子高齢社会を迎え、福祉活動は増々重要だが、その支え手は 100%完全ボランティアで、善意による。社協に限らずですが、行政はそうした担い手の社会的位置付けや保障を考えるべき。
- ・介護保険制度の変化変更は抵抗しがたいが、その弱くなる軽度者支援の方法となる総合事業の地域での具体像を、自分の地域で共有したい。課題も問題も多様かつ多数。
- ・話題としては「新しい人に第1歩を踏み出してもらおうこと」「マンネリからの脱出（同じことが続いていると新しい人は入りにくい）」
- ・他団体との交流を始めたが、地域に関わりのある諸団体の所在がわからない。地図や一覧出来るものがあればいい。
- ・介護保険が導入されてから、（福祉制度が）難しくなったせいか、わからない人が多すぎる。もっと市民の理解を得るには、福祉の会でも考えてみる必要がある。周りは有料老人ホームの資料を集め、探している人がとても多い。

○担い手を増やす際に効果のあった事

- ・役員の知己、コミセンの運営委員、マージャン教室等の行事への参加者から入会者を勧誘している。若年者は仕事等で難しい。団塊の世代に声かけし、数名の入会者を得た。
- ・PTA や青少協から福祉の会の担当として入った人に、残ってもらうよう声をかけている。
- ・様々な場や機会を通じて社協や福祉活動のPRをするが、公開情報だけでは人が集まらず、ほとんどが人間関係での声かけによる。考えられるのは、①日本はボラ活動がまだ非日常 ②必要な人に情報が届かない。
- ・「新しい人に気軽に話しかけ、体験を増やしてもらおう」「原点に戻る」「何かお手伝いをしましょうか?」「新しい知識を増やそう」といったことがキーワードではないか。
- ・お手伝い調査（アンケート）、日頃の回覧板活動、日常の子育て部会のひろばひよこ。高齢者サロンのあじさいひろばなどの活動が根を広げたと思われる。
- ・若い人に「ちょっとでいいから手伝ってくれませんか」と声かけし、承諾いただいた。

○市に支援・推進してほしい事

- ・現在行われる施策についての改廃も充分検討してほしい。
- ・小規模組織のため助成金が削減された。年間行事は従来どおり実施しているので削減前に戻してほしい。バス研修は人気があり、市のバスを借用しているが、片道半径 50 ㎞以内を 80～100 ㎞に延長してほしい。
- ・独居者と交流を図る手立てを支援してほしい。
- ・活動拠点の確立、特にコミセンの部屋を借りるのに苦労した。
- ・活動費に限られ、個人負担のケースも多いので、実態に即した予算配分を。

- ・団体の方から知りたいこと、困ったことができた時サポートしてほしい。
- ・各地域社協の会議に市職員の出席を。問題点・課題を共有して一緒に考えてほしい。
- ・テンミリオン施設を高齢者のためだけでなく、子どもの集いにも使わせてほしい。それだけにとどまらず、もっと各課、共通して使えるようにしてほしい。

4 テンミリオンハウス

○活動の課題・問題点

- ・現在、利用者の平均年齢は78歳。運営開始の15年前より平均年齢が上がり、デイサービス併用の方もいる。共助の場を目指しているが、「助けられる」方が主体となり、「助けてあげる」方が少なくなっている。
- ・限られた広さの中で、多くの講座を行い、来館者数を増す事を、ゆったりと一人ひとりに寄り添い向き合う事の大切さを実践しているが、評価委員の中には、内容より入館者数に着目する方もいて、矛盾を感じている。

○担い手を増やす際に効果のあった事

- ・地域との関係を密にし、又、友人等に誘いかける。
- ・困っていること、人手が必要なことを正直に利用者に相談すると手を差しのべてくれる。また昨年からは運営委員会を利用者・ボランティアと開いているが、建設的な意見をいただける。

○市に支援・推進してほしい事

- ・大枠で事業内容は各団体に任せられ、やりがいもあり又責任も痛感する。物価上昇等に伴い、都の最低賃金が値上がり、人件費の割合が多くなっている中で、光熱水費の経費負担増が年間10万円以上かかっており、その分の補助が別枠であると運営上で非常に助かる。
- ・初期の段階の認知症（MCI）を本人・家族が認識し、進行が遅らせられるようなテスト・予防の場としても機能できる位置づけにしてほしい。もの忘れ外来からの出張診断等。

5 いきいきサロン

○活動の課題・問題点

- ・サロンの将来を見据えた時、後継者に不安がある。現在、サロンのスタッフは無償。人材不足で高齢者再雇用が考えられる現状では、スタッフのなり手が益々少なくなるのではと懸念する。
- ・専属スタッフを雇用する資金がない。
- ・高齢者との接点はあるが、他世代との接点の機会をどうやっていったらいいか。
- ・①開催場所が狭いため、人数を増やすことができない。②必要な物品類（名札、チェック表、小銭入れ他）を毎回持ち運んでいる。置くところがあると便利かと思う。
- ・出席者が5名以下だと補助金が出ない点が運営継続上、問題。天候や体調による欠席は必ずある為難しいのでは。5名以下でも運営費（補助金）をいただけないか。
- ・会場が小さく、マットなどを使わず、椅子での活動をしている。ゴムとボールを1カ月交代で行っているが、予算もあり、何か追加できる道具をほしい。

- ・住宅地のため、あまり大きな鳴り物が使えない。

○担い手を増やす際に効果のあった事

- ・担い手となるメンバーが福祉の会、日赤奉仕団、民生児童委員の方がいて、地域情報が得られた。独居高齢者の把握などから声かけまで連携して取りくみやすい。
- ・地域社協の方々に協力をいただいているが、地域にサロンが増え、ボランティアさんの予定が合わなくなると、人手が足りなくなると予想される。
- ・後期高齢者が多く担い手は難しい。体操が終わると当番を決めて掃除はやっているが準備は若い方（60代は2名しかいない）と一緒にやっている。
- ・社協会員との協同事業とした。
- ・介護経験のある方たちがボランティアとして参加され、介護経験を通して得たことを、地域の方にフィードバックしてもらい、両者にとってメリットがあった。

○市に支援・推進してほしい事

- ・要支援、総合事業の卒業者と、ボランティア活動できる環境づくりを進めてほしい。卒業者の方々に、デイサービスでのボランティア活動をお願いしたが、反応が良くない。
- ・活動ができる広い場所を探している。
- ・準備金が後払いになるため、開設時に補助をいただけると嬉しい。
- ・提出書類の簡素化。補助金支給を早くしてほしい。
- ・活動の発表の場を作ってほしい。
- ・コラボレーションできる団体リストの作成。マッチングの支援。

以上